

北名古屋市鉄道周辺まちづくり構想策定委員会

(第 2 回)

道路と鉄道との立体交差化の考え方

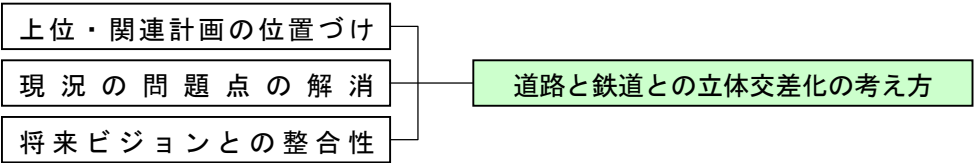
目 次

1. 道路と鉄道の立体交差化に関わる上位・関連計画の位置づけ	
1-1 総合計画	1
1-2 都市計画マスタープラン	1
1-3 関連計画	1
1-4 まとめ	1
2. 道路と鉄道との立体交差化による現況の問題点の解消	
2-1 道路と鉄道を立体交差化すると	1
2-2 道路と鉄道のどちらの高架化が望ましいか	2
2-3 まとめ	2
3. 鉄道の高架化による将来ビジョンの実現性	
3-1 将来ビジョンの実現性	2
3-2 まとめ	2
4. 道路と鉄道との立体交差化の考え方のまとめ	3
5. 鉄道の高架化を活かしたまちづくりの推進	3
(参考) 鉄道を高架化しない場合、高架化した場合のイメージ	4

平成 24 年 6 月 25 日

道路と鉄道との立体交差化の考え方

以下の3つの項目に着目して、道路と鉄道との立体交差化の考え方を整理します。



1. 道路と鉄道の立体交差化に関わる上位・関連計画の位置づけ

1-1 総合計画

総合計画における重点プロジェクト（抜粋）

○一体感のある都市づくりの主要施策

名鉄犬山線と県道名古屋豊山稲沢線の立体交差化による市域の一体化

1-2 都市計画マスタープラン

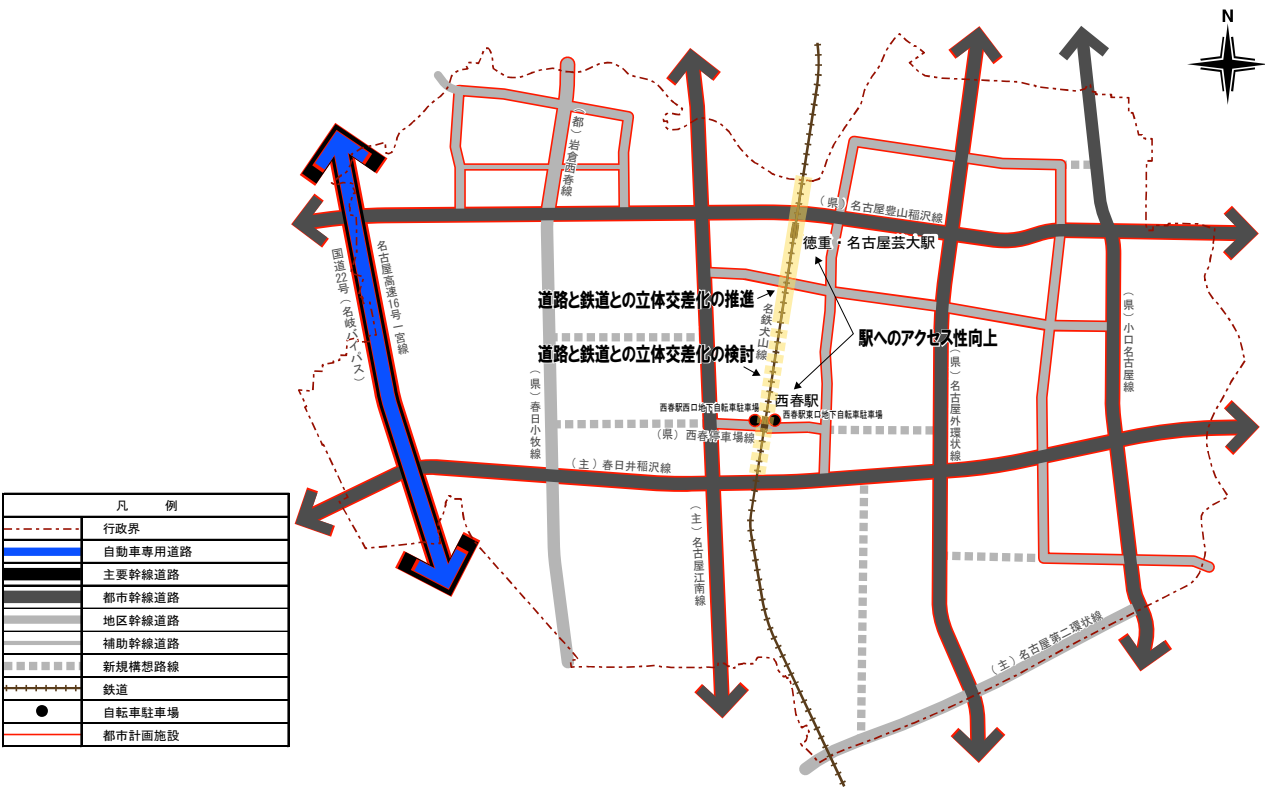
道路交通の方針

○徳重・名古屋芸大駅周辺

⇒道路と鉄道との立体交差化の推進

○西春駅周辺

⇒駅周辺の再整備が必要な時期に道路と鉄道との立体交差化を検討



1-3 関連計画

■徳重・名古屋芸大駅周辺における鉄道の高架化の検討

徳重・名古屋芸大駅周辺では、専門家などによる委員会での検討や地域住民による勉強会などを通じて、立体交差化の方式は鉄道を高架化することで行政、地元ともに概ね合意形成が図られてきている。

■西春駅周辺における鉄道の高架化の検討

西春駅周辺では、これまで道路と鉄道との立体交差化の検討がされていない。

1-4 まとめ

- 徳重・名古屋芸大駅周辺では、鉄道を高架化することで概ね合意形成が図られている。
- 西春駅周辺では、地区の特性や、徳重・名古屋芸大駅周辺の鉄道の高架化によるまちづくりと整合した立体交差化の方式が求められる。

2. 道路と鉄道との立体交差化による現況の問題点の解消

2-1 道路と鉄道を立体交差化すると…

現況の問題点

- ・名鉄犬山線と平面交差する道路では朝夕に激しい渋滞が発生している。（特に、（県）名古屋豊山稲沢線、（都）西春師勝線、市道C62号線はボトルネック踏切）
- ・朝夕の渋滞状況、小中学生が踏切を渡って通学している状況、今後の高齢化の進展を踏まえると、踏切事故が発生する可能性がある。

道路と鉄道を立体交差化すると…

- ・踏切が除去され、踏切渋滞を解消することができる。
- ・踏切事故の発生が抜本的に解決され、鉄道を安全に横断することができる。
- ・道路と鉄道の立体交差化に合わせて、（県）名古屋豊山稲沢線、市道C62号線の改善を図り、自転車や歩行者などの安全性を向上させることができる。

道路と鉄道を立体交差化すると、鉄道をスムーズで安全に横断することができる。

2-2 道路と鉄道のどちらの高架化が望ましいか…

現況の問題点の解消の視点から、立体交差化の方法である「鉄道の高架化」と「道路の高架化」を比較すると以下の通りとなる。（詳細な比較は別紙参照）

鉄道の 高架化	- 道路の高架化に比べて費用負担は大きい、踏切の渋滞や事故発生の問題に加えて、その他のまちの問題点を合わせて解決することが可能 - 回遊性の自由度の向上による、移動のための時間・負担の低減、地域住民の交流の促進。歩く人々が増えることで賑わいの創出にも期待 - 高架区間の側道により、名鉄犬山線で道路が行き止まりとなっている状況を解消 - 鉄道周辺において一体性や連続性のある市街地形成が可能である
道路の 高架化	- 踏切の渋滞は解消されるが、鉄道の横断箇所は増えない - 名鉄犬山線を横断する際に上下移動が発生し、歩行者や自転車にとっては現状よりも利便性は悪くなる - 道路が高架化されると、高架化の区間の沿道が側道利用となり、特に駅周辺に求められる商業・業務施設の立地が進まない

→ 鉄道を高架化すると、鉄道の横断箇所の制約や行き止まり道路の問題が解消できる。（道路の高架化では問題点の解消が進まない）

西春駅周辺については…

西春駅西土地地区画整理事業が進められているが、駅の北側では、幹線道路の不足から市道C62号線へ交通が集中し、踏切で激しい渋滞を引き起こしており、また、若宮地区では、市街地整備の遅れや商店街の賑わいの低下が問題となっている。

このため、徳重・名古屋芸大駅周辺のみならず、西春駅周辺でも鉄道の高架化を推進し、鉄道の高架化と連携したまちづくりによって、このような問題を解消することが期待できる。

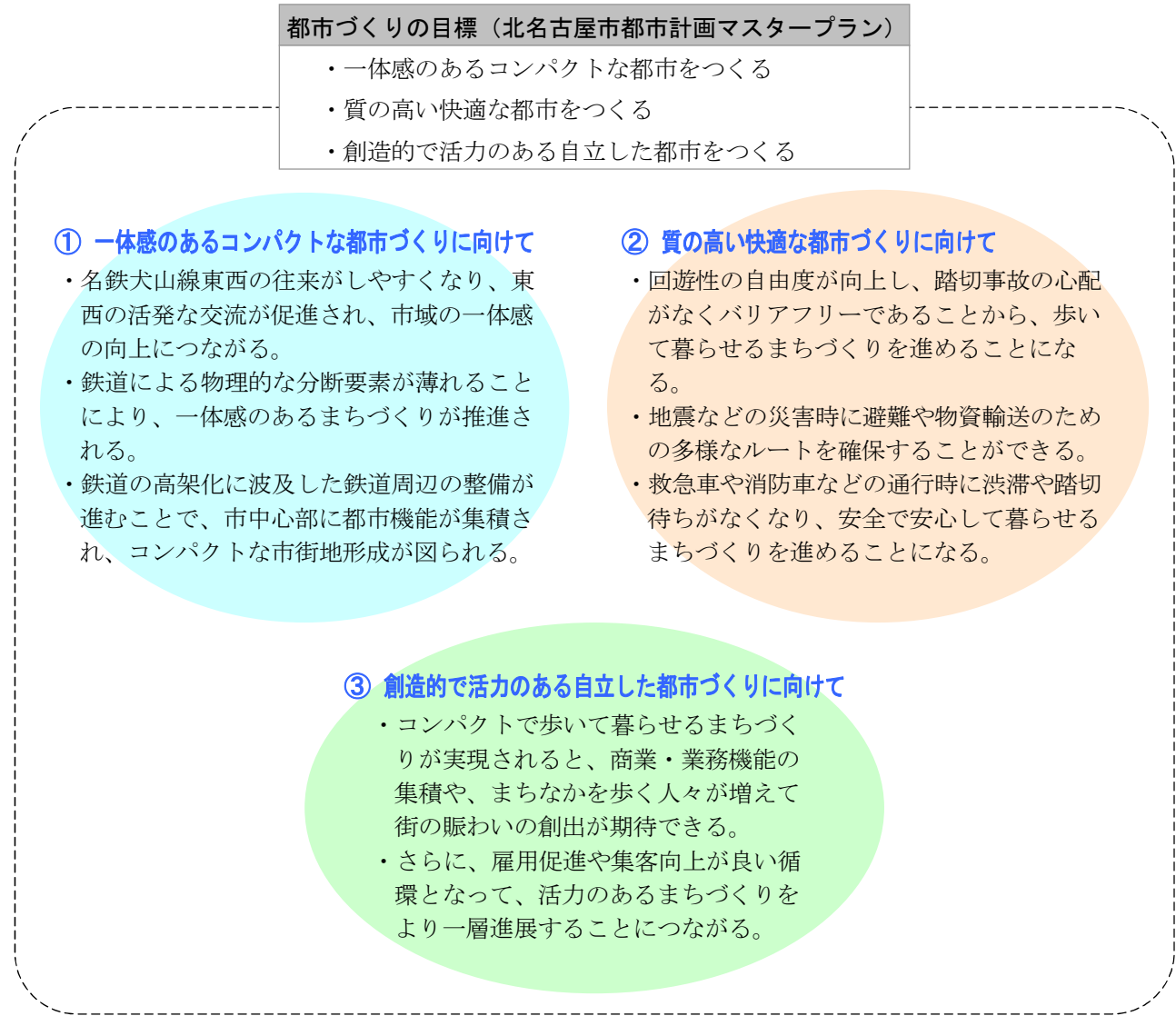
2-3 まとめ

- 道路と鉄道を立体交差化すると、鉄道をスムーズで安全に横断することができる。
- 鉄道を高架化すると、鉄道の横断箇所の制約や行き止まり道路の問題が解消できる。
- また、鉄道周辺における賑わいの創出や一体感のあるまちづくりを進めることができる。

3. 鉄道の高架化による将来ビジョンの実現性

3-1 将来ビジョンの実現性

鉄道の高架化と将来の都市づくりの目指すべき方向（ビジョン）との整合性を以下に整理する。ここでは、将来の都市づくりの目指すべき方向（ビジョン）は、北名古屋市都市計画マスタープランの都市づくりの目標とする。



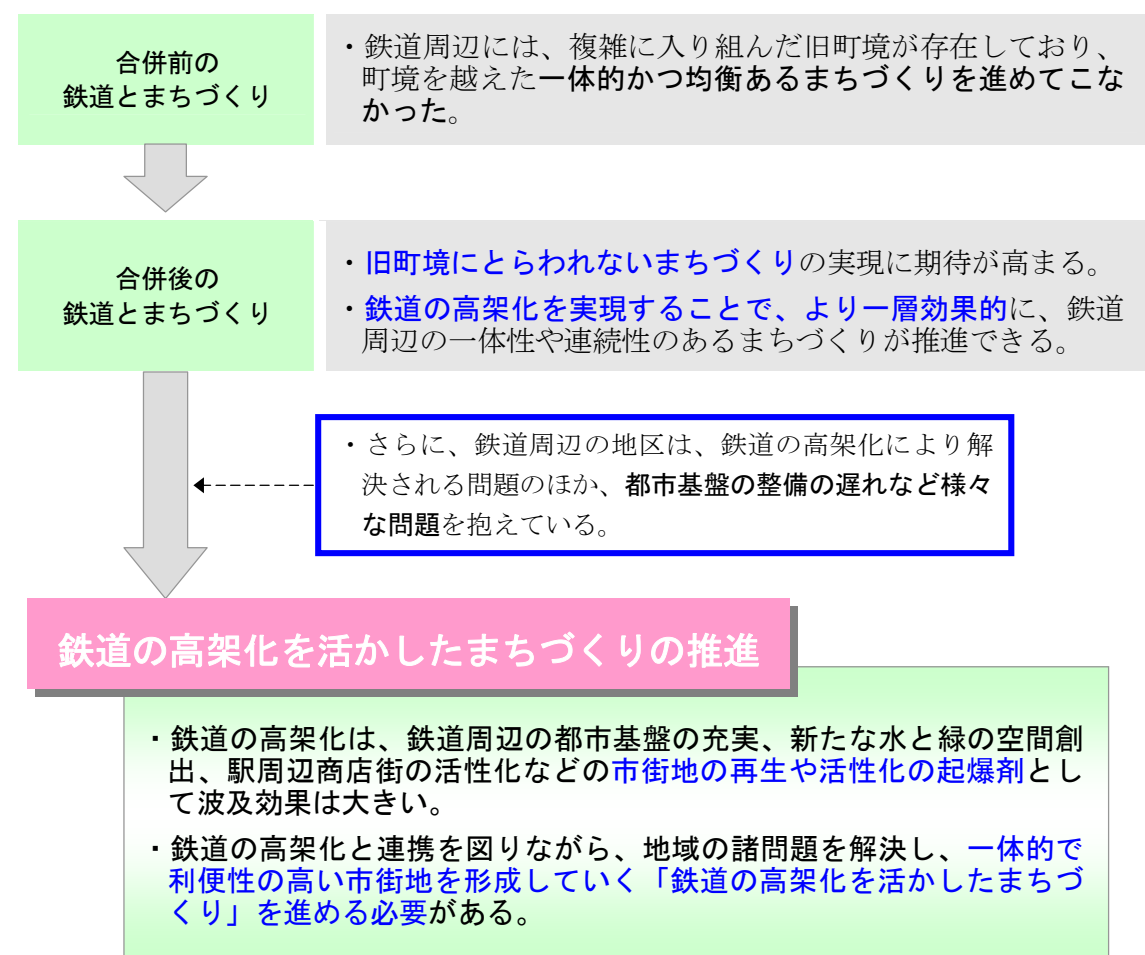
3-2 まとめ

- 鉄道の高架化は、将来の都市づくりのビジョンをより効果的に実現することができる。

4. 道路と鉄道との立体交差化の考え方のまとめ

前述 1～3 から、**西春駅周辺及び徳重・名古屋芸大駅周辺**では、**鉄道の高架化によってより良いまちづくりの可能性が広がる。**

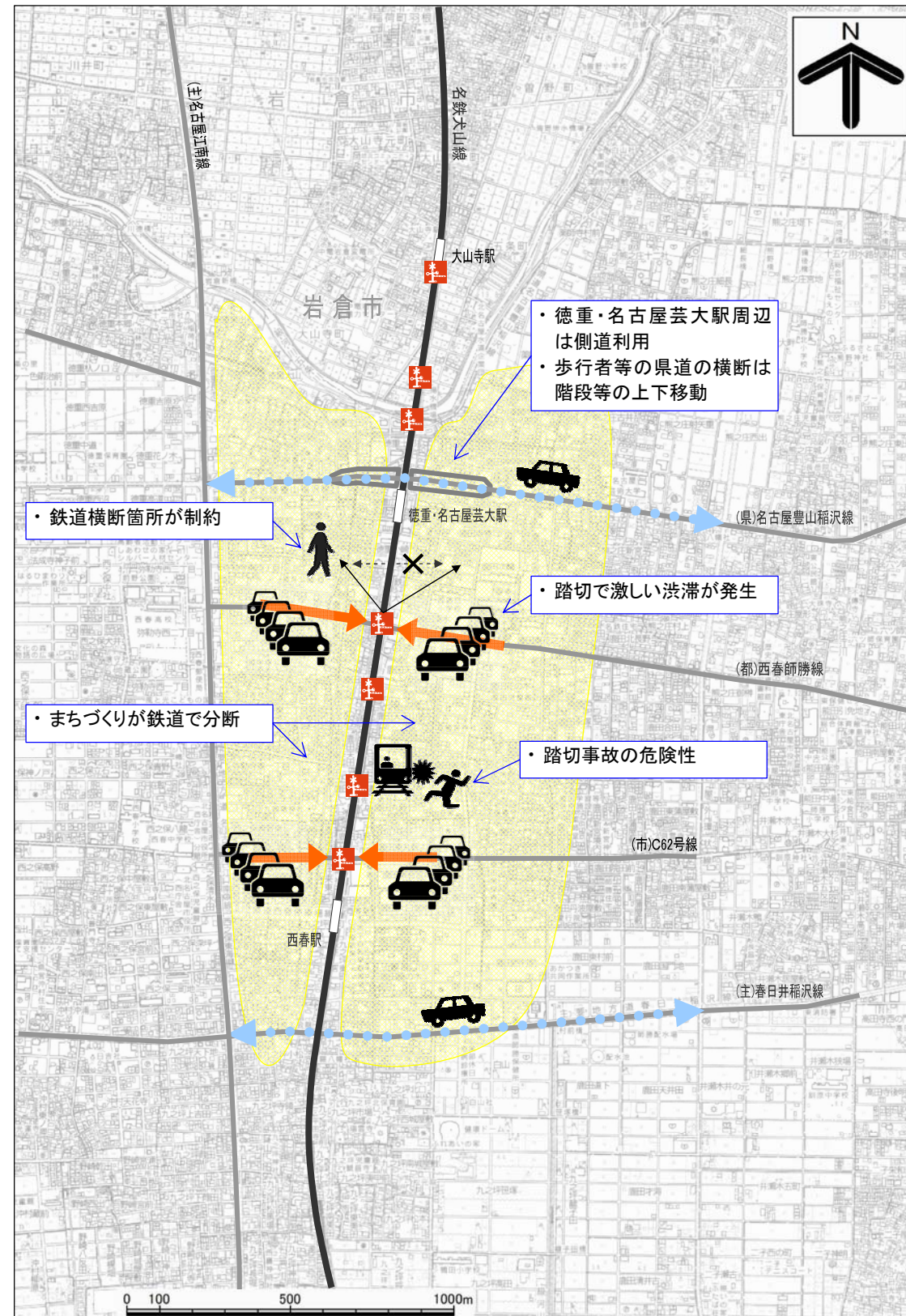
5. 鉄道の高架化を活かしたまちづくりの推進



(参考) 鉄道を高架化しない場合、高架化した場合のイメージ

鉄道を高架化しない場合のまちのイメージ

((県)名古屋豊山稲沢線の高架化済)



鉄道を高架化した場合のまちのイメージ

